

●2019年3月JPA 定例セミナーのご案内

ビジュアルプレゼンテーション

日時：3月2日土曜日 13時～16時
受講料：JPA 会員 2,000円 / 非会員 3,000円

日本プレゼンテーション協会認定講座である「人の心を必ず動かす スマートなコンテンツ作成術(2日間)」を半日版に凝縮しました。プレゼンテーションを準備していくための基本から説得力のあるスライド作成のポイントなどをご紹介します。
※セミナー中、ハンズオンでの課題もありますので、各自 MS Office PowerPoint がインストールされたパソコンをご持参ください。

詳しい内容とお申し込みは[こちら](#)からどうぞ。

●理事長からのプレゼント

人に教える技術とは？ (その4)

高野 文夫 NPO日本プレゼンテーション協会理事長

1. はじめに

今若者の間で「スルーする」という言葉がはやっています。

「無視して通り過ぎる」という意味だそうです。問題をぶつけ合って、がちんこ勝負をすることなしに当たり障りのない関係を通す。

そんなだから、世の中の人間関係が希薄でバラバラになってしまうのです。でもそんな時代なんです！

私はコーチングやファシリテーションの講師をしていますから良く分かるのですが・・・、そのスキルが裏目に出ている嫌いがあります。

上司が部下に仕事を丸投げして面倒を見なくなっているのです。

コーチングの、「解は自分で見つけさせる」という手法を逆手にとって、「自分の仕事なんだから自分で考えて自分で解を探せ！」という部下に仕事を投げてしまうやり方です。

それは上司としての責任逃れ以外の何ものでもありません。あるいはその逆で安易に何でもかんでも面倒を見過ぎるのです。

一緒になって考え、一緒になって走らなければ、上司の持てる知識や技は伝承されません。部下とぶつかり合って切磋琢磨しながらお互

いに伸びてゆくのです。上位の者は上位風を吹かせることなしに、どちらかといえば下位の者のしもべになるのです。

それには人間として大きい器が要求されます。下から支えてあげる、そして投げる時はあたかも柔道の巴投げのように投げられて投げるのです。そして投げた後は、そっと手を添えて怪我をさせないようにする人間的技量と心の余裕が必要なのです。

今の時代には今の時代に合った指導方法、教え方があると思うのです。これこそが私の説く「サーバントリーダーシップ」なんです。

2. なぜ、上手く教えられないのか？

上手く教えられないのは、次の3つの要素がバランスよく満たされていないからです。

① 教えようにも自分が分かっていない

話す内容が難しすぎるか、あるいは自分の頭の中で咀嚼・整理されていず、何を話すのか当人が分かっていない。これはペダンティック（利口ぶる）な学者タイプの人にありがちです。私の大学時代、一部の教官にこの様な人がいました。

① メッセージが多すぎる

話す内容が絞られていない。知っている事をすべて話さないとおさまらない人がいます。物知り博士のコミュニケーション知らずと言うものです。

② 表現が陳腐

プレゼンが下手で、相手の心を掴めず、ましてや感動を与えられない。相手のお腹に落ちる、何時までも忘れる事の出来ない感動を伴った言葉を発せられないのです。それは教える側と教わる側の人の中に心の橋（ラ・ポール）を架けられないという事です。

3. 上手く教えられる人は、何が出来ているのだろうか？

それでは、教え方の上手な人とはどのような人でしょうか？

彼らに共通している事は、人の気持ちを掴んで離さない高い感性力に加えて、高いプレゼン能力を併せ持っていることです。

プレゼンはスキルです。芸人が芸を学ぶのと同じです。それは練習でいくらでも身につきます。

うまく教える為には3つの要素が欠かせません。

① 目的；先ずは何の為に教え、何の為に学ぶのかのお互いの目的をはっきりさせる事です。

② シナリオ；次は教えるに当たっての段取り、シナリオを組み立てる事です。

お互いにそのような段取りで何時までに目標地点にたどり着くのかのロードマップを共有する事です。学ぶタイムテーブルともいえましょう。

③ デリバリリー；教え方の技術です。楽しませながら相手の頭と腹に落とし込む技術です。今の時代は恐怖感で煽って教えても上手くゆきません。

教え方の上手な人はこの3つが過不足なく備わっています。

4. 教え方のスタイルには3通りある

これは産能大学の荒巻基文先生に教えて頂いたものなのですが、受け売りで恐縮です。荒巻先生は、人の指導には3つの型があると言われます。その通りだなーって感心しました。猫の型、猿の型、そして鷹の型です。

① 猫の型・・・親猫は子猫を運ぶ時、首を咥え

て運びます。

子猫は自分では何も努力をしないで済むのです。全く親猫の意思のまま、なされるがままです。これは指導にかこつけて言い直せば、部下等の気持ちや意思にかかわらず指導者がこうと決めたら有無を言わせずその通りにするやり方です。

②猿の型・・・親ザルは子ザルを運ぶ時、子ザルはお腹に下から抱きついて落ちないように頑張ります。子ザルは親ザルについてゆこうと思ったら、親ザルのお腹に必死に食らいつかねばなりません。子ザルの意思は反映されているのですが、どこへゆくのか、何をするのかは親や先生が決めるやり方と変わりはありません。

③鷹の型・・・雛のうちには別ですが、子鷹は自分の力で飛び、自分の餌も自分で捕りま

す。親鷹は、それを見守り必要に応じて支援をします。

つまり、子鷹は自由意志を持って自分に道を切り開きますが、支援が必要な時や危険な時は親が手を差し伸べて助けるスタイルです。

私は、ファシリテーター型リーダー育成研修の中で3タイプのリーダー論を説きますが、それはトロッコ型、放任型、ガードレール型です。

①の猫の型はトロッコ型であり、②のサルの型は放任型、③はガードレール型と言っても良いでしょう。私は③のガードレール方式が一番部下を育てるのに適していると思っています。

終わり

次は2019年3月15日号に続きます。